

# エッセイ

1970 MAY.

NO. 12

▶ 今年度企画

▶ 読書会『夏への扉』

▶ 会員名簿

O・B 短信・春期ハイキング

明治大学SF研究会

# SF研一九七二年

—— 庄司修一郎 ——

SF研も創立以来四年目を迎え、その活動内容もますます充実してきた（いづねの如く）。今年度は十一名という大量の新入生を迎え、総員二十八名（これはそのまま卒業会員数である）、一応クラブらしくなってきたわけだ。

外觀が整えば内容はただこればかりか、こればかりに並べられぬ問題なのだ。質的に高い、低いとかいう言葉はあるのだが、向きもってその基準とするか僕自身わからない。たにナントナクという感じで漠然と分けたりしているのだが、そういう「感じ」で区別する性質のものではないだろう。ファンジンについても高度性の程度が低いのと評価があるようにわかつていく。が、質的に高度ということは、SFほどのくらしい読んだかとか、SFについていっぴののまいたふうなことをいえるとかいうことではないはずだ。—— ちらと私見みたいなのを口走れば、それはSFに対する姿勢の問題ではなかるか。

質的向上という内容も意味もわからぬまま唐突に言うとSF研の活動内容は質的に高度なものを目指す（ことに甘っている）のである。いささか乱暴な話だが、春の合宿で決めた今年の活動内容、企画を考えると、どうも単なるアソビ事ではなさそうであるし、古い話だが一昨年の臨時総会においても、当会は「研究会的」性格を持たせると決ま

っているのだ。—— 企画内容については順次述べて行くが少くとも、質的向上への模索みたいな姿勢が貫かれて

いる。ともあれ、当会はSFのクラブなのだから、SFをある程度は知ってこれればいけねばこまるわけだ。和泉地区の新入生は皆長く読んでいるようだが、生田地区の新入生の中にはまだ長く知らない会員がいるようである。目下、代表的SF小説を選定して読んでもらっているが早く追いついてほしいものである。

又、今年度は二度目の卒業生を送り出し、O・Bも複数にはったのでO・B会山の結成についても考えねばならぬ。既にそういうった問い合わせが北島先輩から届いている。川瀬さん、北島さん、藤本さん、飯田さん、櫻川さん達と連絡をとった上で十七日（第三月曜）の例会で検討したいと考える。

更に他大学のSF研、及びSFファングループとのおつきあいについても考えねばならぬ。当、明治大学SF研宛会もなぜか有名になり、『明大SF研』を答せよとナインテ手紙がきたり、駿台祭にはそのテの連中が押しよせたり、とにかくどうもほっておけない状態になりつつある。この問題も十七日に考えたいと思う。

今年のSF研—— 質的向上への模索（キーン）

（明大SF研幹事長）

SF研の活動内容は、企画を考へると、どうも単なるアソビ事ではなさそうであるし、古い話だが一昨年の臨時総会においても、当会は「研究的」性格を持たせると決ま

## 年間予定概略

5月9日 読書会『夏への扉』 生田支部担当

23日 春期ハイキング

6月7日 (できれば)『テラ』読書会

13日 SFゼミ—今のところ、SF漫画、ヒューマン

27日 ショート・ショート批評会

7月 11日 読書会『未定』 和泉地区担当

後半試験

8月 1日 夏期合宿 佐渡島(予定)

7日

9月 実質的に休み 東京地区集会有

10日 原書講読会 又は 読書会

後半聯合祭準備

31日 聯合祭

11月 3日

14日 読書会 又は 原書講読会

12月 12日 定例総会

18日 打上げコンパ

※ 5月末から6月にかけて和泉祭が、11月末に生田祭がそれぞれ行われる。担当は原則として各支部があること。

※ 6月に適当日を定めてボーリング大会を行う予定あり。

※ 7月の読書会が試験日の関係で変更があるかもしれない。

※ 後期には、新入会員もかなり慣れてきていると認めるので

意見を取り入れたく、目をあけておくことにする。

とにかくどうも思っていること、問題も十七日に考えたいと思つ。

今年のSF研——質的向上への模索(ハイキング)

(明大SF研幹事長)

### \* 読書会

一冊の本を各自読んでおきたら、ついで討論と質疑する。今年度の第一回は藤村の『夏への扉』をとりわけ行う。本の選定、会の進行等、担当は各支部がわりもつて、生田支部が担当。原則として自由参加。要するに読んだ人だけ来いといふこと。

### \* ショート・ショート批評会

この年夏期合宿兼祭壇の企画である批評会が良かつたので再びやることにした。同一テーマで各自ショート・ショートを書き、読み合つて討論し合うもの。提出原稿は雑誌石のたの誰の作品かわからないことになつておき、批評も可である。従つて、この人のこの予のものは読まされた。何とどういふSF的発言もとび出すわけだ。一応6月末に予定した。

### \* 原書講読会

原書による読書会だと思はばよい。テキストはまだ決まつていない。SFマがツンとのコラム、SFキヤスナーには毎回未訳の海外作品が紹介されるので、各自よく読んでおもしろさうなのがある。たら提案してほしい。

### \* SFゼミナール

あるテーマについて徹底的に研究する。7月の夏期合宿ではSFと科学ということでもせまつておきた。今回は、今のところSFとSF漫画という提案があるわけである。

### \* 映画会

SF映画を鑑賞する会。期日は決まつていらず、適当な日を選んで上映せられたら、その日から行う。今年度第一回

はヨミクロの決死圏が予定されている。

### ＊合宿

春・夏年二回行われる。今年の夏期合宿については本誌7月号で特載する。予定では佐渡ヶ島。費用は一万円前後におさえつつもりでいる。

春の合宿は4月初め、年間企画作成を目的に三五日ほどの期間で行われる。今年は5日から7日にかけて箱根遊羅園裏で行った。

夏の合宿はもう少し足をのびして一週間行わなくては行かない。昨年山形の蔵王でハードスケジュールをこなした。詳しくは7月号。

### ＊大賞祭

#### 和泉祭

当会は今年が初参加。内容等詳しい事は本誌文房でお伝えする。展示と、当会の宣伝がハイライトになる予定。

#### 駭台祭

SF研が総力をあげてとりくむビッグ・プロジェクト。昨年はヨSFFと科学館のチームで相当にハードな展示を行った。又、米SFF雑誌の表紙のタイトル上映、海外イラスト展示などもやってみた。今年の企画は夏の合宿で練る。

#### 生田祭

生田支部で愚ノリするおまつり。昨年は支部長以下全員フル回転し、三日連続コンパの費用をかきだ。——出店中心の学園祭で、とても活字にはできないような店を出したのだ。

## ◎春季ハイキングのお知らせ

## O・B短信

▼川瀬保氏（文学部四五年卒・当会創設者）

テラが発行されてほしいせいでしょうか、しばらく音信不通です。

▼北島利幸氏（法学部四年卒・元幹事長）

勤務先が判明しました！！

日本技術貿易社・IT営業部営業三課課長です！！  
あまりの環境の変化にさすがに私はすっかりやりや  
しを失って一気にたらくしてしま。ったそうでおま  
けに、クラブでは、くだらばい事を言うと言われ、  
馬鹿なことを言うと言われ、馬鹿なことを言うと言  
うほいことを言うと言われ、馬鹿なことを言うと言  
われるのだそうです。だから私は今年馬鹿にされて  
きたようでございます。

▼藤本佳彦氏（工学部四年卒・元生田支部長）

住所

兵庫県西宮市武庫川町5-1-1 プリマム西案内

勤務先

大阪市淀川区大塚町中3-1-2 プリマム大阪工場

現在わか。てるの財これだけだ。故郷が奈良な  
ので職務方面に配属になったようです。生田の部屋で  
は、素材材料管理課とかいうところへまわされて豚の世  
話でもせられろん少やないか、ほんて鱈がササヤ

かたていまるが……。  
▼飯田一夫氏（工学部四年卒）



『夏への扉』 R・A・ハイムライン

今回は現代SF界の大御所、ハイムラインの登場。その代表作、『夏への扉』です。もっともハイムラインは、ニューウェーブ派の人々には総スカンをくらっていませんが、そのストーリー展開、小説の構成力はやはりタダモノではありません。(もっともそういつたこと加減スカンの原因なのですか)

『夏への扉』は最早『古典』にはいろうとしています。古き良き時代の、セクス・オヴ・ワンダーに満ちた舞臺件に樂しめる傑作、というわけです。下にそのあらすじを書いとおきました。もちろんこれは、細部まで思い出していただくためのものご読む代わりにはなりません。読んでおさっぱりおもしろくはないのはまじめのヘタさかげんもさることながら、とにかくダイジェストで樂しめるものではないのです(自己弁護も兼ねて)。

- 夏への扉におけるSFのおもしろさ、たのしさ
  - ハイムラインについて
  - N・Wとの対比
  - ロボットについて
- 担当 石川(進行) 向後(解説)

※ あらすじ

主人公、D・B・ディヴスは第一級の技術者である。彼はその天才的頭脳を駆使して文化女中器なる家事専門のロボットを發明し、親友のマイルズと会社を設立する。事業は順調に進んだが秘書として雇ったベルという女がたいへん好くわせるもので、彼女とマイルズの奸計により、彼は開業中の、文化女中器より秀れた万能器をとりあげられ、会社を危ねられる。更に彼は冷凍睡眠の床につかされ、一九七〇年から二〇〇一年の世界へと送られてしまう。ベルとマイルズに復讐するつもりでいたディヴスはそこで落ちぶれ果てたベルを見、マイルズの死を知る。又、彼はそこで自分が發明したことに気づいている新型懇願器ガンを見出し、いつか過去にありて彼がそれを發明したことを知る。彼は一計を講じ、未だ実験段階であり軍の秘密であるタイムマシンに一人か八かの賭けをし、無事一九七〇年に戻ることに成功する。彼は製図器を作り、ベルとマイルズの手から万能器を奪い返すことに成功する。更に愛しのフレドリカへマイルズの結婚と会い、二〇〇二年での再会を約して再びコールド・スリープにつく。(この時フレドリカはまだ十四、彼女は二〇才に達してからコールドスリープにつく)二〇〇一年で彼は年齢的につり合いのとれたフレドリカと再会し結婚する。

ここには書かなかったがこの小説では猫が重要なキャラクターとして登場する。猫好きの川瀬さん(O・B)が狂喜したと伝えられている。

\* 会員名簿 \*

〔駿河台〕

井沢誠一郎 商・4

横山正紀 商・4

坂井紀子 文・4

坂井百合子 文・3

高野 司法・3

竹田 良法・3

山田 護法・3

沼間 美法・3

斎藤幸子 能法・1

〔生田〕

小島義一郎 工・4

庄司修一郎 工・3

向後 基男 工・3

竹波 隆平 農・3

石川正 興 工・2

友崎 雄 工・2

久野 健二 工・1

李 護明 工・1

担当 石川（進行） 向後（解説）

ここに書かなかったがこの小説では猫が重要キャラクターとして登場する。猫好きの川瀬さん（O.B.）が狂喜したと伝えられている。

宮腰 正 工・1

深谷 栄 工・1

〔和泉〕

小沢賢 仁 法・2

妹尾俊 一 文・2

宮本昭 男 政経・2

柏谷雅 一 文・2

本多良 治 政経・2

後藤誠 一 文・1

角田裕 一 商・1

藤原延 久 政経・1

MSFC

MEIJI UNIVERSITY SCIENCE FICTION CLUB